

令和5年度第2回広島県スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 令和5年7月11日（火）10時00分～12時00分

2 場 所 広島市中区基町10番52号
県庁北館3階 委員会室6

3 出席委員（50音順）

上村 幸江（広島県スポーツ推進委員協議会副会長）

川西 正行（広島文教大学名誉教授）

河野 裕二（公益財団法人広島県スポーツ協会常務理事）代理：スポーツ協会事務局長 小林和之

小西 啓二（広島県都市教育長会（大竹市教育委員会教育長））

関口 昌和（一般財団法人どんぐり財団代表理事）代理：みわスポーツクラブ事務局 長尾香織

瀧本 実（広島県議会議員）

土井長 和典（公益社団法人広島県パラスポーツ協会常務理事（兼）事務局長）

名古屋 直美（広島県PTA連合会副会長）

松本 直子（日本健康運動指導士会広島県支部副支部長）

三浦 朗（県立広島大学地域創生学部地域創生学科）

箕野 博司（広島県町村会（北広島町長））

村井 康敏（広島県中学校体育連盟会長）

村井 由香（広島県中小企業家同友会副代表理事）

吉村 薫（広島県高等学校体育連盟会長）

渡邊 綱治（広島県小学生体育連盟理事長）

欠席委員（50音順）

尾方 剛（広島経済大学経営学部准教授）

隈元 美穂子（国連訓練調査研究所（国連ユニタール）持続可能な繁栄局長）

西原 淳（一般社団法人世羅町観光協会事業部長）

濱田 泰伸（広島大学大学院医系科学研究科教授）

和田 崇（県立広島大学経営情報学部経営学科教授）

4 議題

- (1) 広島ドラゴンフライズの新B1リーグ参入に向けた県の協力方針について
- (2) 令和5年度広島県ハンドボール協会に対する補助対象大会の変更について

5 担当部署

広島県地域政策局スポーツ推進課スポーツ企画グループ

TEL (082) 513-2641

6 会議の内容

会議の公開について

会 長 　ただ今から議事に入らせていただきます。時間も限られておりますので、皆様の御協力により、審議を円滑に、また、効率的に進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

　まず、会議の公開について取り決meを行いたいと思います。事務局の方から説明をお願いします。

事務局 　会議の公開の取扱いについて説明いたします。資料7を御覧ください。

広島県スポーツ推進審議会は、「知事が所管する附属機関等の会議の公開に関する規則」第2条第1項の規定により、原則、公開するものとされております。そして、同条第3項の規定により、「会議の公開方法」や「会議を非公開とする場合」の決定につきましても、本審議会において決定するものとされております。これまでのスポーツ推進審議会では、いずれも同条第2項に定める「傍聴」と「議事録の閲覧」の両方により公開を行っておりますので、今回につきましても、同様の方法による公開を御提案いたします。本日は傍聴希望者がございませんけれども、報道関係者の方が別室で待機いただいております。

　会議の傍聴が決定されましたら、この規則第3条から第6条の規定により、取り扱いをさせていただければと思います

会 長 　ただ今の事務局からの提案について、特段の御異論がなければ、この方法により本会議を公開することとしたいと思いますが、いかがでしょうか。(異議なし) ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

議題 広島ドラゴンフライズの新B1リーグ参入に向けた県の協力方針について

会 長 　それでは、次第に記載がございます「議題」の「(1) 広島県スポーツ推進審議会説明資料」「(2) 広島ドラゴンフライズの新B1リーグ参入に向けた県の協力方針」について、広島ドラゴンフライズの浦信嘉社長及び事務局から説明してください。

広島ド それでは、資料1の広島県スポーツ推進審議会説明資料を1枚めくってください。
ラゴン 広島ドラゴンフライズはですね、広島で誕生いたしました、今シーズンで10シー
フライ ズン目、10年目を迎えるプロバスケットボールクラブでございます。Bリーグが誕生
ズ して、それまでにもいくつかリーグがございましたけれども、Bリーグが誕生して今
年で8シーズン目を迎えておりまして、我々、クラブとして10シーズン目と、まだ
まだ若いリーグ、若いクラブではございますけれども、今、広島でプロバスケットボ
ールクラブとして活動させていただいております。バスケットボールを一生懸命やる
のはもちろんなんですけれども、我々広島ドラゴンフライズとしてはですね、広島ら
しさを追及してですね、クラブもチームも広島プライドということで、この合言葉を
もとに、広島をしっかりと背負ってですね、県民のためにしっかりと活動していこうと
いうことで、今、活動させていただいております。その中でですね、Bリーグが誕生し
て10年目を迎える、今からちょうど2シーズン目の2026年-2027年からですね、ち
よっと大きな変革がございます。

次のページ、トランスフォーメーションと書いてあるんですけれども、もうちょっ
と簡単に申し上げますと、いま、Bリーグは、Jリーグと同じ仕組みのオープン型と
申しましてですね、昇降格が激しいリーグの設計になっておりまして、チームの勝敗
によって、我々もそうでしたけれども、B2リーグからB1リーグに上がれたりです
ね、チームの成績が悪いとB1リーグから、B2リーグに落ちたりと、少しJリーグさ
んと同じような形で進んでいるんですが、2026-2027年より、よりBリーグらしい仕
組みにしていこうということございまして、エクспанション型というオープン型
から、まだ確定ではないんですけど、プロ野球さんのように、クローズ型と申しま
してですね、チーム数が変わらないような、そこには、急にはいかないんですけれ
ども、その間のような、ライセンスといった、いくつかボーダーがございまして、それ
をクリアすると、そのリーグに入れて、勝敗によって落ちることがない、というよ
うな形がとられます。なので、単年競技成績のみによる昇降格が廃止で、これはリーグ
が、クラブ経営力、事業投資がしやすい環境にしていこうということ、このような
改革が行われます。今月の末にですね、Bリーグチェアマンの島田というものが、大
きく発表してですね、日本国民の方に大きくお知らせするタイミングが来るんですけ
れども、それが2026年-2027年から始まるということです。

次のページを見ていただきまして、2026年-2027年のトップリーグに入るため
には、いくつか条件がございまして、それを大きく3つ書かせていただいております。一
つは、入場者数基準、平均4,000人以上入れないといけないことと、もう一つは売上
に基準がございまして、年間の売上が12億円以上。もう一つがアリーナ基準と申し
まして、新設アリーナ基準の充足、アリーナの要件が揃うこと。この3つが大きく条
件として課せられております。

今、全国各地で新アリーナの計画がどんどん進んでおりまして、広島としてはです
ね、いろいろな形を模索しているんですけれども、今日の本題の説明にもあるのです
が、ライセンスを取るためには、広島県の広島県立総合体育館、グリーンアリーナさ
んをですね、ホームアリーナとして使用していただくことがですね、唯一のライセン

スをとれる方法であるということが判明してですね、その調整を今、させていただいている最中でございます。

次をめくっていただきまして、その中でですね、リーグから、アリーナに関してオーダーがございまして、このようなVIPのようなスイート、ラウンジ、VIPの来場を促進してほしいということで、スイートルームであったり、ラウンジを設けなさいということが記載されております。マイルストーンで話をさせていただきますと、その審査がですね、2023年、今年、あと4か月後の10月に新しいリーグへチャレンジしますという参入の意思があと4か月後にございまして、その後、2024年の10月まで1年間で、書類だったり、いろんなものをリーグに提出をしながら審査をされまして、2024年の10月が審査の最終提出期限となっております。その後、11月から12月の1～2か月かけて、ライセンスの発表があるということで、我々に残された時間があと1年しかないということで、今、進めさせていただいております。その中でですね、1次審査、2次審査、3次審査、4次審査とあるんですけれども、審査の順番と申しますか、1次審査は2年連続4,000名以上と2年連続12億円とアリーナが充足している場合に、1次でライセンスを取れますよという状況でございます。で、1次審査で、もうすでに昨年ですね、これ2年間の対象なんですけれども、1次審査に通る対象チームが5チームございまして、おそらくここはもう5チームが1次審査で、トップリーグに入ってくるんじゃないかと。

我々、今度2次審査を目指しております、それが一期4,000名以上、一期12億円以上ということでございまして、我々まだ昨シーズンで3,400弱の平均でございましたので、売上は12億円を超えているんですけれども、この2次審査に入っていないと、なかなかライセンスは厳しいんじゃないかなと考えています。ここ書いてあるんですけれども、原則18クラブまでをトップリーグの最大数となっております、最初が10チームと言われているんですけれども、最大で18チームで閉じられるとリーグから聞いておりまして、この今2次審査をですね、その1年前は15チームから20チームぐらいと言われていたんですけれども、今、皆さん、どこのクラブも努力されて、先日、チェアマンからの発表では22チームから25チームぐらいが、この2次に絡んでくるんじゃないかということは今、言われておりますので、我々この来シーズン、4,000名以上入れたとしても、100%はいれるわけではないので、数字もそうなんですけど、クラブとしてどれだけ地域に根差しているかというのは、見られていると思いますので、全ての部門で、大きな成長していかなきゃいけないのかなと思っております。

で、その2次審査でもし、18クラブまでいかない場合は3次まで伸びて、3次が1シーズンで4,000名かつ売上を9億円以上もしくは、入場者数3,000名、かつ12億円ということで、我々、3次審査は受かっている状況ではございますけれども、よりトップリーグに入っていこうと思うと、この2次審査に入っていないといけないという状況でございます。

続きまして、次のページ、先ほど少し申し上げたスケジュールなんですけれども、今ちょうど2023-2024シーズンが始まる前でございます、ここから、新リーグに

参入します、という表明を10月にさせていただいて、初回の審査が2024年の10月に行われます。これに受かれば、2026年の10月から新リーグとして参入できるようになります。しかし、いろんな条件が整わず、ライセンスが取れない場合、2年前に決めていくこととなりますので、もし、再チャレンジしようと思うと、2028-2029からの参入となりますので、4年ほど空白が空いてしまいます。我々もB2の時代が長くございまして、一旦、このトップリーグに入れないとですね、選手は皆さん、流出するというか、トップリーグにいきますし、やっぱり、広島県の方々の企業さんも含めてですね、投資する価値が一気に下がりますので、こうなると、クラブの存続の危機じゃないかと我々、本当に危機感を感じてはいますが、せつかく、いま10年たって、皆さんにたくさん応援していただいておりますので、なんとか、このタイミングで、2026年-2027年からトップリーグに参入していきたいなと思っております。

続きまして先ほどの審査の進め方の御説明なんですけれども、1次審査、2次審査、3次審査というような形になってございまして、18クラブを超えた場合は、相対評価になりまして、先ほど申したとおり、広島ドラゴンフライズが、どれだけ地域に根差したかっていうことの数値化のようなことを見られるんですけれども、例えば、ファンクラブの数であったり、スポンサーさんの企業の数であったり、テレビ中継される数であったりですね、いろんな数字を相対的に評価されると伺っております。

続きましてですね、御存知の方も多いかもかもしれませんが、昨シーズンのクラブの順位でございまして、東地区、中地区、西地区と分かれていますけれども、我々、西地区で4位という成績でございました。ただ、勝率はですね、大変高く、6割9分5厘ということで、西の4位でございましたけれども、中地区の1位よりも、勝率はいい成績でございましたし、全体でいくと、B1リーグ、3シーズン目ということで、トップクラブに一步踏み入ることができたんじゃないかと思っております。クラブ史上初めて、CSと申しまして、野球でいうクライマックスシリーズのような、チャンピオンシップと申しますが、そこに出場することができて、なんとか応援していただいている県民の皆様にも胸を張って帰れる成績だったのではないかと思います。

続きまして入場者数でございまして、先ほど申し上げたとおり、昨シーズンはですね、平均が3,335名ということで、今シーズンからあと2万から延べ3万人ほど来ていただかないと4,000人達成しないということになってございまして、最後の方は4,000人を超えるゲームがございましたけれども、まだまだ力不足でございまして、今シーズンは4,000人しっかり入れるように頑張りたいと思います。

続きまして、その入場者数の順番がございまして、いま、3,335名というのが12番目の順位でございまして、先ほど、冒頭で申し上げた4,000名以上入れているのが、上から5番目ですね、琉球、東京、川崎、千葉、宇都宮、この5チームのみが4,000名を超えております。アリーナの条件を満たすことができれば、この5チームは確実にトップリーグに入ってくるんじゃないかと。この5チーム除いた13チームの、争いになってまいりますので、みなさん本当に努力されて集客を頑張られると思いますの

で、我々も努力して18チーム以内に入れるようにですね、しっかり頑張ってもらいたいと思っております。

続きまして、基準の12億の売り上げなんですけれども、本当に皆様の御協力のおかげですね、昨シーズンから12億円は超えておりまして、今シーズンも14億3800万の着地の見込みになっております。これはもう堅調に右肩上がりに来ておりますので、さらに売り上げを伸ばせるように努力してもらいたいと考えています。

続きまして、チケットもコロナ禍も収束したとのこともございますし、非常に多くのお客様が、一階の席が、ほかのクラブから少し高いと言われていたんですけども、一階の高単価の席から売れている状況でございます。非常にコート上のバスケットボールの価値が少しずつ認めていただいているんじゃないかなと思っております。これも、来シーズンどんどん伸ばせるように、更なる飛躍してもらいたいと考えております。

続きましてですね、今日のアリーナのお話なんですけども、先ほど、冒頭で少しお話をしたんですけども、新設アリーナの話はいろんなところで検討はしていたんですけども、2024年の10月までに、この計画がなかなか難しいということが分かりましてですね、昨年12月にいろいろ情報収集をした結果、グリーンアリーナさんでないと、この基準を超えることはできないということで、広島県さんに御相談をさせていただいて、そこからいろんな調整をスタートさせていただいております。

県内では、今、我々は西区にある広島サンプラザさんを使用させていただいております。そこもアリーナ要件の5,000席以上ないといけないとかですね、トイレの数が5,000席だと140個、150個ないといけないとかですね、いろいろルールがございますけれども、その基準をどうしても満たすことができない、スイートルームも作らなきゃいけないということで、なかなかサンプラザさんが改修の予定もないというお話でしたので、可能性が高いグリーンアリーナさんで調整を進めさせていただいております。正式に3月23日に広島県さんにこのような御要望をさせていただきました。

①ですけれども、新B1参入をするために、新アリーナ基準を充足するよう県立総合体育館を改修させていただけないかというお話と、新アリーナ使用できるまでの間に、グリーンアリーナさんをホームアリーナとして利用させていただけないかという御要望を、3月にさせていただいております。

その後、4月から6月の間に、他の利用団体様に御説明と御意見を徴収してもらいまして、これに書いてあるとおりではございますけれども、例えば、中国地方で最大規模を誇るグリーンアリーナは、定例的な中国ブロック競技大会などで使用をするため、利用調整の機会が必要であるということ、あと新アリーナができるまでの暫定的な利用であること的前提で協力は可能であるが、期間の目途を示していただきたいとかですね、競技大会や講演ができる場所の選択の幅が広がるため、新アリーナへの期待が大きいということで、ほとんどの競技団体の方が協力しなげひ進めていきましょうという前向きなお言葉をいただいておりますけども、我々としてはしっかり調整をさせていただきながらですね、御迷惑をおかけすることも多々あると思ひ

ますので、丁寧に御説明しながら進めていきたいと思っております。

また、新アリーナに対して、非常にたくさんの方々から期待をしていただいておりますので、まずライセンスを取るためには、グリーンアリーナさんの話をこの1年かけて進めていかないといけないですけれども、我々の新アリーナというところもしっかり見据えてですね、この2軸で新アリーナの話をしっかり進めながら、グリーンアリーナさんをホームアリーナ化させていただいて、将来的には新アリーナを建てると、そのような順番で進めていきたいと考えております。

最後にですけれども、利用の調整を積極的に協力して、皆様がなるべく負担がないように、できるだけ日程やカーディング等の調整をさせていただきたいなと思っております。また、先ほどから申し上げているとおり、現時点です、具体的な新アリーナの計画はないんですけれども、新B1が始まる、2026-2027シーズンから5シーズンほどを目安にですね、グリーンアリーナさんを暫定利用させていただく。ですので、今から8年以内には新設アリーナが建てられるように計画を進めてまいりたいなと思っております。特にこの2年間ですね、この1年は、グリーンアリーナさんの改修を行い、ライセンスを取りに行きながら、もう1年で新アリーナの方向性を出していきながら、今から8年後までには、アリーナが建てるようにしっかり準備をしてまいりたいなと思っております。

後ですね、グリーンアリーナを改修していかないといけないんですけれども、新アリーナ基準を充足するための施設の改修についてはですね、時代の変化に合わせた、より魅力的な施設になるようにですね、我々、ドラゴンフライズだけというよりも、皆さんがより、サッカースタジアムもVIPルームを作られると聞いていますし、マツダスタジアムさんもスイートを作ったりと、多様な観戦の仕方と申しますか、アリーナの魅力を上げられるように、我々クラブだけでなく、皆さんがほんとに魅力的な施設と感じてもらえるように改修を行ってですね、我々がコストを負担して、広島県さんに寄付するという形で、進めさせていただけないかと思っております。最後、施設の改修についてはですね、県の施設運営に支障がないように、技術的な要件などについては、しっかり協議して、合意させていただいた上で、実施施行していきたいと思っております。

以上、広島ドラゴンフライズの現状と方向性の御説明させていただきました。

御清聴いただきまして、誠にありがとうございます。

事務局 それでは続きまして、資料2により、県の協力方針案について御説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

資料2を御覧ください。資料2に沿って御説明させていただきます。1の要旨目的についてはこちらに記載の通り、広島ドラゴンフライズが新B1リーグ参入に向けて、グリーンアリーナを暫定的にホームアリーナとして利用するという事について県として協力したいという考えでございます。

経緯につきましては、先ほど浦社長からもございましたけれども、3月13日に浦社長が湯崎知事を表敬訪問し、主に2点、こちらに記載のとおり記載の内容の御要望

をされたということでございます。その後ですね、浦社長が直接、利用団体へヒアリング、県も同席の上で実施をさせていただきました。主な意見につきましては、先ほど浦社長から御説明をさせていただいた通りでございます。利用団体からの意見を踏まえた、ドラゴンフライズさんの対応案についても、先ほど浦社長が御説明をなされたとおりでございます。

裏面にいきまして、県の協力方針でございます。新 B1 リーグが始まる 2026-2027 シーズンから 5 シーズン程度を目安に、ドラゴンフライズが暫定的にグリーンアリーナをホームアリーナとして利用できるよう、シーズンごとに必要な利用調整を行いたい。また、新 B1 のアリーナ基準充足に向けた施設の改修を認めたいというものでございます。

なお、施設の改修につきましては、これも先ほど浦社長が申し上げた通りでございますが、新 B1 アリーナ基準を B リーグが示したことがございますので、附属設備としてスイートスペースなどを備えるアリーナが全国的に増えている状況の中、グリーンアリーナも竣工後 30 年が経過してございます。時代の変化に合わせた、より魅力的な施設となるよう、クラブの負担において、スイートスペースを含め、施設の改修を行い、県が寄付受納することとしたいというふうに考えてございます。施設の改修につきましては、改修後の県の施設運営に支障が生じることがないように、技術的な要件などについて、しっかりと県に協議し、合意の上で実施していただきたいというふうに考えてございます。

今後のスケジュールでございますけれども、本日ですね、皆様の御意見を踏まえまして、後日ですね、県として、正式な方針を決定したいというふうに考えてございます。その後のスケジュールについては御覧のとおりでございます。

私からの説明は以上でございます。

会 長 ただいまの発言について、御意見・御質問等がございましたら、御発言ください。

委 員 2 点ほど教えていただきたいんですが、現状が 3,400 名から 4,000 名を目指すという、その具体的な方法があれば、教えていただきたいということと、2 つ目が、クラブ負担で改修をするということで、不躰なんですが、財務体制というのは盤石なのでしょうか。以上です。

広島ド 今は、広島サンプラザさんがメインで、今シーズンも広島サンプラザさんが 24 試合ございまして、グリーンアリーナさんを 3 試合ほど使わせていただきまして、あと
ラゴン 2 試合、福山さんの、エフピコアリーナというところで開催をさせていただいている
フライ んですけども、主には広島サンプラザさんでございまして、昨シーズンまでが席が
ズ 4200 席で、立ち見で 4500 名ぐらいがマックスの状況でございまして、それをですね、工夫をしまして、4,200 から 4,450 席になるほど、増席を予定しておりまして、立ち見ですと、最大で 4,750 名程度は入れるように、まずキャパを広げたというのは一つございます。

その最大の理由はですね、我々は、発券率ではなくて、着券で、例えば 1,000 枚売

れたとしても、人が800名しか来なければ、800名というふうに表示しないといけないというルールがございまして、大体、今10%ぐらいのお客様が、当日、何かの用事で来られないということで、昨シーズンまで4,200枚売れたとしても、10%下がると、3,800名になってしまうので、キャパをまず最大値にしよう。4,500であれば10%が来なくても、なんとか4,000名来るとということで、一つキャパを最大に広げることが、4,000名という大きな道につながるということで準備させていただいております。

二つ目がですね、先ほど申し上げた着券率がですね、やっぱりどうしても10%ぐらい減ってしまいますので、その改善として二つですね、特に企業様にシーズンシートというものを買っているんですけども、そこで今シーズンがですね、もし来られない場合は先に御連絡をいただいて、当日、例えばボランティアの中から学生を、いい席だったら座って見てもらおうとかですね、当日、ちょっと流動性のあるような、着券に寄与するような準備をしようということが一つございます。もう一つはですね、今まで、1,000席ほど自由席を設けていたんですけども、我々も色々な施策を行ってまいりまして、自由席のオファーをたくさんしてきているんですけども、例えば、年間でいつでも来られる自由席をお渡しした場合ですね、実はこれ、戻りが30%ぐらいなんです。例えば100人にオファーしても、来られるのが30人ぐらいございまして。やはり普段の生活でもそうですけど、いつでもいいよ、来てもいいよって言われるオファーだと、いつか行こうかっていうことで、ほとんど来れないというのが人間の行動心理なのかなと思っております。逆にですね、日付と席が指定される席をオファーさせていただくと、この席で何月何日ですっていうことになる、逆に85%以上来ていただけるというようなデータが出ておりますので、それを踏まえてですね、今シーズンは1,000席以上あった自由席を無くして、4,450席、全席指定で、指定席に替えさしていただいて、ざっくり申し上げますと、最終ですね、その日付と席番のあるチケットを、その試合の前までに、何かしらの方法でお渡しさえすればですね、90%以上来ていただけるという計算のもと、ありとあらゆるチケット販売の準備をして、何とか4,000人を超えるように、大枠は組んでおりますので、あとは皆様が応援に行こうと思っただけのように、我々努力して進めてまいりたいと思っております。

二つ目はですね、財務体質なんですけれども、クラブとしては、もう、6年以上、連続で黒字を達成しておりますですね、債務超過も昔はあったんですけども、今は解消をしてゼロになっておりますし、大改修をするっていうよりもですね、新アリーナのために、微改修ということで、なるべくコストを抑えていこうということで、まだ、どれだけのコストがかかるか、正確には出てないんですけど、一応そのコスト分は我々クラブもそうですし、親会社も含めてですね、出せる準備は整っておりますので、そこは御安心くださいというのが回答でございます。

会 長 それでは、他に御意見、御質問等がございますでしょうか。

委 員 ドラゴンフライズさんではなく、県の事務局に伺いたいんですけど、ドラゴンフラ

イズさんが使われることによって、施設の利用料金が上がるということはありませんでしょうか。

事務局 利用料金につきましては、そのようなことはございません。興行・スポーツ興行、有料興行、あとアマスポーツ、区分がいくつかあるんですけど、それに応じた利用料金をいただくようになります。それはもうどなたが使われようが、その区分に沿って料金をいただくということになります。

委員 今まで通りということでしょうか。

事務局 はい。今まで通りでございます。

会長 他にございますか。

委員 先ほどカーブとかサンフレッチェという話をしたんですけど、広島との結びつきに関して考えれば、広島プライドっていうテーマを掲げてすごくいいことだと思うんですけど、例えばユース世代を育成しているとかその辺があんまり見えなくて、そういう選手がプレーをやっていて、朝山選手が長いんですけどね、もう少し地域と広島との繋がりみたいなのが発揮できる方法があるのかは考えられているのでしょうか。競技としての難しさがありますか。

広島ド
ラゴン
フライ
ズ 今ちょっと10年ということですね、我々、B2に長い間いたものですから、まずそのB1に上がっていきこうという、そこに最大限の注力をしておりましてですね、なかなかそのユースの活動とかをやってはいるんですけども、なかなか、整っていないというのが現状でございます。今からは、先ほどおっしゃった広島らしさの一つとして、やっぱりその育成の広島ってプロスポーツ界から言われておりますけれども、カーブさんにしても、サンフレッチェさんにしても、非常に育成が全国的にも有名であるところでございますので、我々も右へ倣えじゃないですけども、我々も育成に力を入れていきこうっていうふうになんか今考えていて、新しいコーチを入れて、そこはしっかりやっていきたいと思っています。

もう一つは、Jリーグさんもそうなんですけれども、Bリーグは、選手の入替えがすごく激しいリーグでございます。特にBリーグは今、リーグ全体の各クラブとか、我々もそうなんですけども、本当に大きな成長を遂げているフェーズでございます。選手の立場からすると、長期で契約をするよりも、短期でいい選手であればあるほど活躍すると、次にいいオファー来る可能性がありますので、あとこの2026年に向けてあと1年ということで、みんな短期の契約を今、選手としては、マインドとしてはしているような状況なんですね。ちょっとなかなか我々もコントロールできなくてですね、状況としては、なかなか選手の入替えが激しいリーグになりますので、おっしゃっていただいたとおり、長く在籍する選手が少なくて。県民の方々、ファンの方々からすると、やっぱり選手をきっかけに好きになる、そういうきっかけで、まずクラブを好きになるんですけども、そういう雰囲気とか文化がなかなか醸成しに

くい状況でございますので、やはり、クラブとしてですね、クラブを応援していただけるファンをいかに作っていくかというのが、一つBリーグとしては、大きなポイントなのかなと思っておりまして、どういう方向性で、どういう哲学で、どういう思いで、というのはクラブとして、しっかり前面に出していくことが重要なのかなと思って活動させていただいております。時が来れば、長い選手も出てくるんじゃないかと思っておりますので、少し長期的に見ていただければと思っております。

会 長 他に御質問、御意見はございますか。

委 員 御説明ありがとうございました。

私の方はですね、ちょっと数点伺いたいんですが、先ほどの御説明がありました中で、まず今までグリーンアリーナを使われていた団体がまずいらっしゃるとというのが今回あると思うんですが、そこに対して、ちょっと言葉が適切であるかどうかわかりませんが、割って入るという話になるんだと思うんですね。そうなった場合に、今まで使われていた団体に利用調整をしますよ、ということで説明の中にもあるんですけども、まずこの利用団体へのヒアリングというのはどれぐらいの団体にヒアリングをされたのか、まずお伺いしたいと思います。

事務局 プロモーターさんも含めて、約10団体でございます。主に、定期的な大規模な大会などをされている団体。このシーズンの大体、9月、10月から4月、5月ぐらいのウィンタースポーツですので、浦さんのところのシーズンがそれぐらいのシーズンですけれども、その期間で主に大きな大会を定期的に使われているという団体にヒアリングをいたしました。

委 員 今10団体ということなんですけれども、シーズンが9から10ということですので、ここに今日お集まりの代表者の方もいらっしゃると思うんですが、例えば高体連さんとか、そういったところも含めてですね、9から10ということは、選抜大会の予選とか、各種スポーツのですね、屋内スポーツでやる、そういったところの分の選抜ですから、各県代表じゃないと思うんです。そうすると、その御説明の中にもありましたように、中国ブロックでの上位者が選抜大会に行くというのが、競技によって多少違うと思うんですけれども、ということになると、これ、基本各県で持ち回りということもあるんだと思うんですが、その際に、中国大会がこのシーズンにドーンと入ってきた場合にはですね、まずは利用調整ができるのかどうなのかということがまずあります。だから、そういうところも含めて、そういうのはもう優先的にそういうところが利用できるのかどうなのか。多分、皆さんイメージは持っておられるんだと思うんですけれども、実際問題、その計画がですね、どれぐらいの前の段階で設定されるのかちょっと僕存じ上げないので。それが変な話ですね、調整がつかないっていうことになると、これおかしな話になりますので、そういったところが十分に利用調整ができるのかということ。

それと、先ほどからありますように、新アリーナができるまでということの暫定措

置ですよということで、暫定ということは、要は、ずっとここを使うんじゃないよと。先ほど浦社長の説明の中で最後ありましたが、今から概ね8年ぐらいを目途にということであるんですけども、先ほどからの御説明をお聞きすると、要はこの数年間勝負です、というようなお話も感じ取れました。そういったところで言うんですね、その暫定の期間を超えるようなケースが、当然そこを目途にされるんですけども、ただ、今、全く計画がない中で言うんですね、8年なんてあっという間に経つと思うんですよ。来年の2月にオープンします、そのサッカースタジアムだって、相当年、これ順風満帆であそこに設置されたわけではなくて、いろいろな紆余曲折、経緯、経過があつてこうなっています。そういった意味でいうんですね、やはり当然その暫定的な、基本的には、やはりね、広島のような中核都市で、野球、サッカー、バスケット、バレー、いろいろなスポーツのプロスポーツチームがあるというのは、やっぱり広島の魅力の一つであろうと思いますし、これを今後しっかりね、広島が中四国の中心拠点ということで進むということであれば、必要なものだというふうに思いますが、ただその青写真なりというのを、やはりもう少しね、お聞かせいただかないと、やって駄目でしたっていう話ではないんだと思うんですね。だからそこらの部分もあると思いますし、最終的にこれを協力するということになると、県の方にも関係してきますけれども、そこらの部分をしっかりと見極めた上で、もしくはそこらの方向性がある程度出ている上で、暫定に協力していく、もしくは、今の時点ではそこまでできないかもしれないけれども、例えば、1年後、2年後も途中経過を踏まえながらやっていくとか、そこらの部分がね、やっぱりないと、なかなかですね、今は協力している利用団体の皆さんも、ずっとこの状況ですかっていうことは、これ以上増やせないってことなんですよ。ある意味ね。今、最後の御説明の中にもありましたけど、新アリーナへの期待というものも、各団体さんがどういうふうな利用になるかわかりませんが、そういったものもあるというところは、夢はね、非常に語っていただいているんですけども、そこらの部分がやっぱり一つ一つ詰めていかないといけないというふうに思うんですけども。そこらの部分でね、今、先ほど以来、御説明いただけなかったところの部分で、もし何か補足の説明とかがあれば言っていただきたいし、今言ったようなことは、一個人の意見というよりは、色々な方々のお話を聞いて、皆さん賛成というか、前向きには多分とらえられていると思うんです。ただし、やはりそこには、しっかりとしたやっぱり裏付けなり、確認していかなくちゃならないっていう階段があると思うんですよ。だからそこらの部分をね、しっかり県もやっていただかないと駄目だし、当然その主体であるドラゴンフライズさんもしていただかないといけないと思うので、そこは指摘をさせていただき、また何か補足があればお話をいただければと思います。

事務局　　まず1点目について、事務局の方から少し御答弁いたしたいと思います。

今、そのカーディングの対戦相手を決めるスケジュール感というのは、先ほど浦社長の資料では少し説明がございましたけれども、まだ、Bリーグからは正式に出ていないんですけども、現状のルールを申し上げますと、かなり大規模な興行イベント

は2年前に早期予約という受付方法をしてございます。それ以外のものについては、1年前から予約を受け付けて利用調整を始めていくというような状況でございます。Bリーグもそのカーディングが2年以上前ということになると、こういう発表が正式になされればですね、今の利用ルールを少し変えていかなきゃいけないかなというふうにも考えています。その中で、各利用団体様としっかり利用調整ができるような、もし変えるのであればですね、ルールにさせていただきたいというふうに考えてございます。

委員 これからまたルールを変えるということですかね。

事務局 変えなきゃいけない可能性があるということですよ。そこを変えるときには、もちろんドラゴンフライズだけではなくて、しっかりと利用団体と調整ができるようなルールにしなきゃいけない。今の説明ですべて御納得いただけるとも思わないんですけども、現状の県の考え方はそういうことです。

2点目の青写真についてちょっと私から少し申し上げられないので、浦社長からお願いします。

広島ド 一点目の補足でございますけれども、Bリーグが7月27日に全体の発表がござい
ラゴン すので、最終の決定事項ではないんですけど、今、我々が情報としてもらっているの
フライ はですね、現時点は土日を中心に興行をさせていただいているんですけども、
ズ 2026-2027年からですね、半分以上平日になるっていうふうに今、伺っております。
て。例えば、月水土とかですね、土日連続でやっているバスケットボールのリーグは
日本しかないんですね。これちょっと体力的にすごい負荷がかかるので、その部分を
ちょっと世界基準にしていこうということで、土日連続の試合を少なくする。基本平
日が半分程度になる、ホームゲームの試合は30試合でございまして、それから半分
が平日になってまいりますので、平日ですと、夜中から準備してですね、朝に設営が
終わった状態にして朝の9時からリハーサルに入って、夜の19時あたりからだいた
い試合になりますので、それで終わって、また夜中、3交代制みたいところで、夜
中に撤収をして、次の日の朝の6時ないし9時には空けるような、平日は1日だけを
くりぬいたような形で対応させていただけるのではないかと考えております。土日に
関しては、その部分がちょっと正確に出てないんですけども、全体で5節ほど、な
ので10試合ほど、ホーム、アウェーがございまして、ホームだともしかしたら土
日、土日、土日という設定が3節ほどあるかもしれないんですが、そこはちょっとま
だ見えてはないんですけども。どちらかという、ヒアリングさせていただくと、
土曜日単日とか日曜日単日とかよりも、土日のセット、例えば、我々、土曜日を例え
ば使わしていただいて、日曜日だけのイベントがあるかっていうと、皆さん日曜日だ
けじゃなくて土日が使われたいということでしたので、そうすると土日で我々3節あ
った場合、6試合消化になりますから、50何週でいくと、その3週のみになりますの
で、他のイベントにはそれほど支障がなく、我々も現時点で来シーズンも、一節ない
し二節、土日を使わせていただきますので、そういう通常の中で、それほど負荷がな

いようなカーディングになっていくんじゃないかと、今のところ予測されております。ただ、土曜日一日とか日曜日一日とかいうこともなかにはあるかと思っておりますので、そのあたりはあらかじめ、2年以上前にカーディングをフィックスしますので、その調整のルールは今からちょっとBリーグのルールが出てからになると思っておりますけれども、今のところそういうような、平日が半分以上なので、そういうお話を今、団体様にさせていただいております。

あと、最大で30試合なんですけれども、6試合ほどは他の会場でできますので、福山さんは、2試合なのか1試合なのか必ずやってまいりたいと思っておりますし、我々が移動した後の広島サンプラザさんも試合会場としては使えますので、おそらく10月にすごくイベントが多いふうに私は思っておりますので、10月はビジターの試合を増やしてもらって、あとはサンプラザさんなり福山さんなりで、少し外さしてもらおうとかですね、そういうようなこともできるんじゃないかなと思っております。あと単日の土日ですね。これはまだ定かではないので、7月の末になるんですけれども、例えば、金曜日から月曜日の間に2試合組めと言われたら、金月でも組めますので、その辺りなるべく土曜日、日曜日のアマチュアの大会と調整できるように話を進めてまいりたいと思っております。そういうカーディングに、調整しやすいカーディングに2026年からなっていくことが今わかっておりますので、その辺りは今、利用団体様とも話をさせていただいております。

つきまして、新アリーナなんですけれども、全く決まってないというのは、その表に出せる情報はちょっとまだ決まってないってことでございまして、水面下では、どうしたら進むのかは、もちろん話を進めておりまして、その連携先とも2年以内には答えが出るようにということで今、話を進めさせていただいておりますので。

もうすでにですけれども、広さがどれだけいるか、あらかじめ図面を描いてみょうですとかいろんな準備はしてはいるんですけれども、決まってないことはちょっと言うわけにいかないということで、具体的に決まってないんですけれども、非常に前向きに今いろんなところで準備を進めております。今はちょっとこれだけしか言えないんですけれども、またそのあたりの進捗はですね、皆さんに御報告させていただきたいなと思っております。よろしく願いいたします。

委員 ありがとうございます。

決まっていないことはですね、お話しはしていただけないと思っておりますけれども。今回はドラゴンフライズさんのお話で、今、アリーナの調整をやっているんですけれども、漏れ聞くとところによると、他の競技団体さんも、同じような形式をとるような意向もあるやに聞いているんです。だからそこら辺の部分も含めて、これは県の方をお願いすべきところですが、やはりしっかりと全体を見てね、やはり協力すべきところは協力する、ということもしないといけないし、違う方法を取らざるをえないということもあるかもしれません。だからそういったところはやっぱり目の前のことも大事ですが、やはりそういった情報があるわけですから、そういったところも踏まえながらね、調整というか、また、その施設自体も先ほどここに出ていますよう

に、30年以上経過しているというところも一つあると思うんですね。だからこのあり方、今、推進計画とかの中にも、それぞれの施設の立ち位置というのは明記されていますけれども、そこらも踏まえながらですね、また、今こういった要件というのは、今までその計画当時がない要因だと思います。ということはやはりそういったところも加味しながら、計画をね、進める、もしくは新しい要因を加えたもので計画を進めていくということをしていかないと僕はいけないと思うんですね。だから、その部分は、県の方へお願いをしておきたい。

あと、最終的にこの部分のゴーサインというか、というのはどういうスケジュールになるのでしょうか。最初に審議会で、今日、話が出ました。そして先ほどの県のスケジュールによると、「今月の19日の総務委員会に出します」というところはわかるんですが、最終的に、これに協力していきますというのは、いつでしょうか。これまだ明確ではないんですかね。

事務局 ありがとうございます。

事務局から御答弁申し上げてよろしいでしょうか。最初の御意見は、県として、しっかり受けとめさせていただきます。

今後のスケジュールでございますけれども、会長からの御説明にも確かあったかもしれませんが、今回、広島県のスポーツ推進審議会の委員の皆様にお聞きした上で、今回お聞きした御意見を踏まえまして、県として方針を決定したいと。19日の総務委員会までには県としての方針を決定し、総務委員会に決定した方針を報告したいという趣旨でございます。

会長 他に御意見、御質問ありますでしょうか。

委員 聞きなれない言葉で申し訳ないんですけど、スイートコーナーとか、VIPルームとかってというのは、どうもその体育施設なんかについていうのはうまく理解できないんですけど、その辺は、他のところを見たら付いている、ズムスタにもあるという話も先ほど出たんですけども、どういう意味合いで、条件として入っているんですか。

広島ド
ラゴン
フライ
ズ
これはあくまでも私の予想でございますけれども、特にアメリカのアリーナビジネスっていうのは非常にうまくいってございまして、アリーナを保有するバスケットボールクラブがですね、価値が今、十年間で10倍になったりとかしている中で、そのアリーナの中にVIP対応の専用VIPルームがですね、そういう動線を独自に準備してございまして、そのアリーナビジネスの中で、何て言うんでしょう、そういうVIPの方々
の収益が大体5割以上、それ以外の方々からも5割。もしくは8割ぐらいになるクラブもあるんですけども、そこまで偏ると私は長期的には難しいと考えているんですが、ある程度世界のスタジアムビジネス、アリーナビジネスのベーシックになっているのは、やっぱりVIPの方々からちょっと高額なお支払いをいただいて収益を安定させる。要人の方だったりするとなるべく人に合わないようすとか、札幌にエスコンフィールドさんも裏導線が完璧にできてございまして、非常にVIPの方々の満足度が高

い。そういうところから、スタジアムビジネスを運営されているんですが、そういうような流れで、日本もBリーグもですね、同じような収益のモデル一つとして、全部が全部同じではないんですけども、一部作って、満足度を上げていこうというのは一つ主な目的でございます。

先日、G7もございまして、ちょっとグリーンアリーナさんに入れなかったんです。この6月7月に我々も含めて見させていただいて、改修の業者をいま選定している状況なんですけれども。すこし御提案がありまして、こういった形でリーグが求めている要件をクリアするというのが具体的に出ますので、ちょっとまだ具体的にはなっていないんですけども、イメージ的には、席の上の部分ですね、ちょっと一部席を無くして、ボックスのようなものを、仕切られたようなところで観戦していただくと。ちなみにいま、広島サンプラザでもボックス席のようなものをいくつか作っているんですけども、やっぱり、ボックス席の方から売れていくと。今まで隣で見ているような方とですね、多様な見方というか、ボックス席で、家族とか、友人で、少し隔離された、他のお客様から離れたような状況で自由な楽しみ方をするというのは、今、少しずつ広がってきているんじゃないかなという印象がございます。そのような顧客満足度を上げていくというのは、多様な観客のスタイルといいますか、そのようなことを広げていくことが大きな目的だと思っております。

会 長 他に御意見、御質問ございますでしょうか。

それでは、事務局においては本日の御意見等を参考として施策を続けてください。

議題：令和5年度広島県ハンドボール協会に対する補助対象大会の変更について

会 長 では続きまして、次第に記載がございます、議題の「(2) 令和5年度広島県ハンドボール協会に対する補助対象大会の変更について」、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局 資料3について御説明をさせていただきます。今年の3月のスポーツ推進審議会で御承認いただきました補助対象事業なんですけれども、このたび、変更がございましたので御説明をさせていただきます。

1番の趣旨から御覧ください。スポーツ大会助成事業につきまして、ヒロシマ国際ハンドボール大会で予算措置をしておりましたけれども、広島県ハンドボール協会から補助対象大会を「パリ 2024 オリンピック女子アジア予選 Hiroshima JAPAN」に変更してほしいと依頼があったため、対応するものでございます。なお、同様に、広島市も補助事業として対応する予定でございます。県と市の大会に対する補助金につきましては、この表のとおりでございます。補助金額は変わりません。

経緯としまして、アジアハンドボール大会なんですけれども、もともとは愛知県で開催予定でございました。しかし、開催期間が変更となりましたので、愛知県が変更後の期間では会場確保ができなかったことから、広島県に打診があったものでござい

す。この4月に、大会開催地が広島県に決定しております。その結果、広島県ハンドボール連盟の方から、「ヒロシマ国際ハンドボール大会」ではなく、「パリ 2024 オリンピック女子アジア予選 Hiroshima JAPAN」に変更してほしいと申し出があったため、今回の説明事業とさせていただきます。

大会の概要としましては、3番を御覧ください。8月17日～23日に東区スポーツセンターで6か国が出場し、今回のパリオリンピックの出場権を争う大会となっております。この大会で1位通過いたしますと、パリオリンピック大会の出場権が得られるものとなっております。

資料3-2を併せて御覧ください。こちらの「6 広島県ハンドボール協会、大会開催費」のところにございますとおりです。

説明としましては、以上です。

会 長 ただいまの説明について、御意見・御質問等ございましたら、御発言ください。
御意見はないようですので、事務局においては、関係団体に対する補助金交付事務を進めてください。

7 会議の資料名一覧

資料番号1	広島県スポーツ推進審議会説明資料 広島ドラゴンフライズ
資料番号2	広島ドラゴンフライズの新B1参入に向けた県の協力方針について
資料番号3	補助対象大会の変更について
資料番号3-1	令和5年度体育・スポーツ関係団体に対する補助金一覧（総括表）
資料番号3-2	令和5年度体育・スポーツ関係団体に対する補助金一覧表
資料番号4	スポーツ基本法（抜粋）
資料番号5	広島県スポーツ推進審議会条例
資料番号6	広島県スポーツ推進審議会運営要領
資料番号7	知事が所管する附属機関等の会議の公開に関する規則